

ボランティアに参加して

学生 燕山乃菜

誰かの役に立ちたい。恥ずかしながら、私がボランティアに参加した理由はそんなものではありませんでした。もともとは受験が近く、書類を書くのに必要だから、何か社会貢献をすれば有利になるから、そんな理由で、ボランティアを探していました。ボランティアを経験をしたことはもちろんありません。どのように探していけばいいのかもわからずにただインターネットのサイトを眺めていました。そして、ふと目に留まったのが日韓アジア基金。教育について関心があったこと、そして半日でできるということもあり応募を決めました。送られてきた作業マニュアルや説明を読み、意識が高まるにつれて、緊張感が増しました。以前から、私はボランティアに対して、堅苦しく厳しいイメージがあったこともあり、行きにくいなやめようかなと途中で考えたりすることもありました。

ところが実際に参加すると、自分の描いていたイメージと180度違うということがわかりました。まず様々な年齢層の方がいるのに驚き、その中でのアットホームな雰囲気には驚かされました。作業はニュースレターを折るところから始まり、シール貼りや袋詰めなどでしたが、一番やりがいがあったのは手書きのメッセージでした。自分の字をそのまま読んでもらえるということを考えながら作業をしていると、自然とやる気が出ました。

私は今回のボランティアを通して、楽しみながら誰かの役に立てるといふことの充実感を味わうことができました。そのようなことも含め、実際に経験してみないと分からないことがたくさんあると感じました。そしてボランティアは一生に一回は経験するべきものだとも思いました。

最初はどんな理由でもいいと思います。でもきっとまた参加したくなると私は思います。今後大学で教育のことや発展途上国の子供たちについて学ぶことができたとしたら、また違う形で様々な団体に貢献できるといいなと考えています。そして積極的にいろんなボランティアに参加したいと思います。

そのように考えるきっかけを作ってくださった日韓アジア基金の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

ありがとうございました。